

愛川小田急多摩線延伸促進協議会だより

第14号

令和8年3月 発行

発行/愛川小田急多摩線延伸促進協議会 編集/愛川町総務部政策秘書課

延伸の早期実現に向けて要望や啓発活動を実施

■ 関係機関への要望活動を実施

小田急多摩線の延伸実現に向け、当協議会と相模原市及び町田市の住民団体の6団体合同で小田急電鉄株式会社及び神奈川県、東京都、相模原市、町田市に対し要望活動を実施しました。令和7年度は初めて東京都に対しても要望を行うなど、早期の延伸実現に向け、多くの関係機関へ地域の想いを伝えました。



神奈川県橋本副知事に要望書を手渡す古座野会長

■ イベントでのPR活動を実施

当協議会の取組みや小田急多摩線の延伸構想を広く周知し、機運醸成を図るため、令和7年度に行われた「勤労祭野外フェスティバル」や「ふるさとまつり」でPR活動を実施しました。今後も引き続き、お子さんから大人まで多くの方に興味を持ってもらえるよう取組みを進めてまいります。



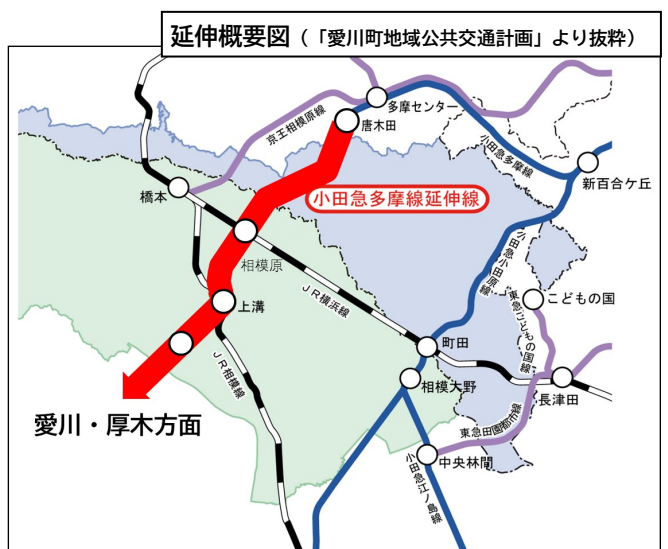
勤労祭野外フェスティバルでのPR活動

町の各種計画に延伸促進が位置づけられました

愛川町では、令和8年3月にまちづくりの具体的な将来ビジョンを示す「都市マスタープラン」と、これを踏まえて具体的な公共交通の方向性を示す「地域公共交通計画」を策定しました。

「都市マスタープラン」では、小田急多摩線の延伸が県の「かながわ交通計画」に延伸が位置付けられていることなどを踏まえ、公共交通の整備方針として「「愛川小田急多摩線延伸促進協議会」と密に連携し、本町内への誘致実現に向けた取り組みを推進」することとしています。

また、「地域公共交通計画」においても、こうした位置づけを踏まえた中で、具体的な施策として「小田急多摩線の本町方面への延伸実現に向けた取り組みを推進」していくことが位置付けられています。



「相模原駅北口地区土地利用計画」が公表されました

小田急多摩線の延伸については、平成28年の国の交通政策審議会の答申第198号において「上溝までは延伸する」とされているほか、愛川方面の延伸検討について、上溝までの整備の進捗状況を踏まえつつ行うことが適当であるとされています。

こうした中で、本延伸構想のルート上にある相模原駅北口の約15haの相模総合補給廠一部返還地について相模原市が令和7年8月に土地利用計画を公表しました。

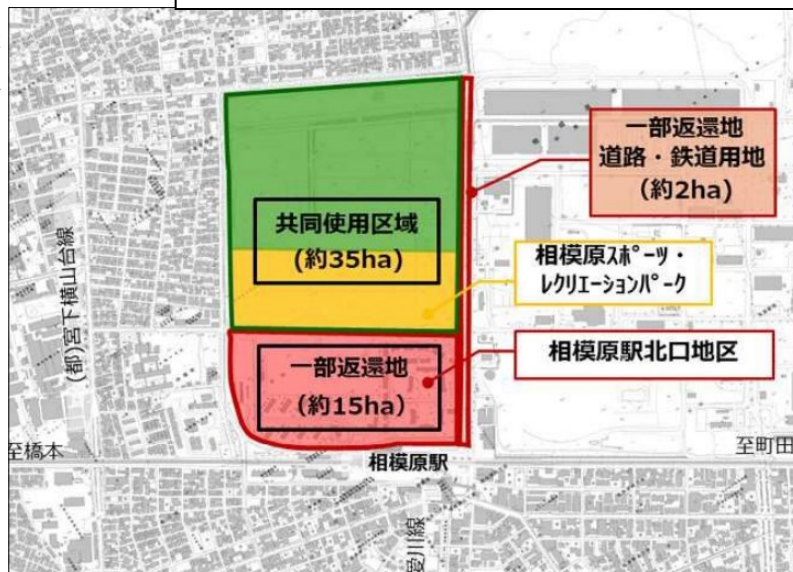
今回公表された土地利用計画では、小田急多摩線の延伸について「唐木田駅から多摩市及び町田市を通り、相模原駅及び上溝駅までを結ぶ延伸計画の構想がある」ことを踏まえ「将来的な延伸を見据え、南北道路下を延伸部の導入空間とすることを想定」「延伸の実現に向けて、交通事業者、関係機関等と継続的な情報交換・調整を図る」ことが位置付けられています。

また、まちづくりでは、業務開発共創機能を有する施設を中心に街区形成を図る「業務優先エリア」、駅南北の一体的な商業地形成のため商業機能を優先的に複合化して街区形成を図る「商業優先エリア」、800～1,000戸を目安とする「居住優先エリア」等のエリアを設けることが示され、鉄道需要の創出も期待される内容となっています。

小田急多摩線の延伸に向けては、沿線自治体や学識経験者等で構成する関係者会議等で具体的な検討が重ねられており、令和8年度中にも調査検討結果が取りまとめられる見込みとなっています。

本協議会でもこうしたまちづくりの状況や延伸がもたらす広域的な効果を踏まえ、引き続き近隣の住民団体や関係機関と連携し、延伸実現に向けた取組みを展開してまいります。

相模原駅北口地区（「相模原駅北口地区土地利用計画」より抜粋）



愛川小田急多摩線延伸促進協議会の構成団体（41団体）

[自治会]

川北区、宮本区、原白区、両向区、細野区、田代区、角田区、三増区、箕輪区、小沢区、上熊坂区、熊坂区、下谷八菅山区、二井坂区、桜台区、半縄区、坂本区、六倉区、大塚区、桜台団地区、春日台区

[商工団体]

愛甲商工会、神奈川県内陸工業団地協同組合、愛川工業クラブ、大塚下団地共栄会、（一財）繊維産業会、（公社）厚木法人会愛川支部、（一社）厚木青色申告会愛川地区会、あいちゃん商店会、愛川町観光協会、愛川町食品衛生協会、（一社）愛川町建設業協会、愛川管工事協会、愛川町電設協会、愛甲造園組合、愛川町自動車整備協会、愛川液化ガス協同組合、愛甲商工会青年部、愛甲商工会女性部、中津川漁業協同組合、（一社）神奈川県建築士事務所協会愛川支部 《順不同》